

次期草津市地球温暖化対策実行計画

草津市議会ゼロカーボンシティ特別委員会からの提言等(R6.9.30)と対応

| No. | 提言等 | 対応等 (ページ番号は資料 3 計画 (案) に対応) |
|-----|---|--|
| 1 | 次期計画には「草津市らしさ」が取り入れられることとなっているが、草津市は健幸創造都市を宣言していることから、エコ活動と健康を掛け合わせた取組が草津市らしさだと考える。その具体的な取組事例として、エコと健康をリンクさせた取組の一つとして、亀岡市が実践され、多くの市民が取り組んでいる「エコウォーカー」事業の導入および、行動変容のきっかけづくりを促すことができる新たなポイント制度の創設を提案する。 | p58 に示す重点 A⑤「環境にやさしい移動の推進」として、歩くことがエコ活動にも健康にも繋がることに触れた、p59 のコラムを追加するとともに、p60 に示す重点 A⑦「エコアクション推進事業」を充実させ、530（ごみゼロ）運動など歩いて清掃活動することなどに対してもポイントを付与することを検討する。 |
| 2 | 草津市には日本を代表する企業や技術力を生かした中小企業が多くある。今後、人口の視点からの、国も重点な政策として進めていく「サーキュラーエコノミー」推進について企業支援を行っていくことを提案する。 | まずは、「サーキュラーエコノミー」という言葉を広く市民に知っていただくため、p69 にコラムとして盛り込むとともに、啓発を行っていく。 |
| 3 | 公の施設のグリーン購入に関して、指定管理者も、市全体で温暖化防止を進めていくうえで、グリーン購入を実施すべきであり、実効を確実にできるような制度の導入を要望する。 | 本計画は公共施設の取組を定めた事務事業編ではなく、草津市域全体の取組を定めた区域施策編であることを鑑み、指定管理者を含む市内の企業・団体の皆様方にも、まずは「グリーン購入」を知っていただくべく、p71 にコラムとして盛り込むとともに、啓発を行っていく。 |
| 4 | 廃食油の回収でバイオディーゼル燃料にリサイクルしている県内の企業があり、市においては、以前に廃食油をせっけんにリサイクルする取組を進めていたが、中止となった経緯がある。時代の状況としてバイオディーゼル燃料のニーズがあることも踏まえ、地球温暖化防止を進めていくうえでも、廃油のリサイクルを進めることについて検討すべき。 | 昨今は、環境負荷の少ない廃食油等を使った航空燃料の需要が高まっており、民間事業者の動きが活発になってきていると認識している。行政としても、これらの動向に注視しつつ、「更なるごみの減量・リサイクルによる資源循環型社会の構築」(p78) 向けた取組を進めていきたいと考えている。 |
| 5 | 計画の核として第一に優先されるべきことは、明確なビジョンで 2030 年の姿がどうであるのか、というわかりやすいストーリーを市民に示すことであり、地球温暖化は危機的な状況であり、2030 年までに二酸化炭 | 環境審議会からの指摘に基づき、次期計画はできるだけ市民にわかりやすく伝えるよう配慮した。2030 年 50% 削減に向けて、まずは市民にはエコ・アクション・ポイント、事業者・団体には愛する地球のために約束する |

| | | |
|---|--|---|
| | <p>素を半分に減らすという、これまでの延長ではない強いメッセージを示すこと、それが市民の行動変容に繋がる必要な観点である。</p> | <p>協定事業に取り組んでいただきたいということを明確にした。(p46, p52)</p> <p>また、計画の実施にあたっては、国・県により按分で推計された CO2 排出実績とは別に、市民・市内事業者の取組による CO2 排出削減実績の目安を分かりやすく示すことで、行動変容を促していく。(p54, p56, p60)</p> |
| 6 | <p>上記の視点からと現在の社会情勢からも市民に理解を得やすい「プラスチックごみを減らす(使い捨て文化をやめる)」というわかりやすいテーマに絞って施策展開を実施することを提案する。</p> | <p>環境審議会からは、「プラスチックごみを減らす取組は、温暖化対策にとどまらず、広く環境問題として捉えるべき議題である。」との指摘があったが、本計画（温暖化対策実行計画）においても、取組項目として「更なるごみの減量・リサイクルによる資源循環型社会の構築」(p78) を盛り込み、啓発を行っていく。</p> |